

2024 年度 後期 教養教育		日英区分 : 日本語
Webアプリケーション開発入門		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
LB2343	LB-1-AS0048-J	【教養教育】学びのリテラシー（2）
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
小川 康一 [Ogawa, Koichi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
		2

■ ■ 授業の目的

本授業では、社会において広く利用されている情報システムやサービスについての成り立ちや動作原理を学び、これらの背景にある技術要素についての理解を深めるとともに、自ら基本的なWebアプリケーションを組み、実際の動作を確認出来るようになることを目的とする。コンピュータシステム、ネットワークシステム、クラウド基盤の構築・運用の実務経験のある教員がそれらの経験をふまえた授業を展開する。

■ ■ 授業の到達目標

Webサービスの仕組みを理解し、説明ができる。
PHPとMySQLを用いて基本的なWebアプリケーションを構築できる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 ○
D：社会的倫理観・国際性 -

■ ■ 授業概要

情報システムやWebサービスについての知識を得るとともに、これらの背景にある技術要素について理解し、自ら基本的なWebアプリケーションを開発する。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

授業の前半は、講義により情報システムおよびWebサービスについて学び、都度各自のPCにより演習を行う。授業の後半は、何名かで構成するグループに分かれ、普段感じている課題や不便さについて話し合い、これを解決する独自の新しいシステムやサービスについて、調査、議論、検討を行う。独自に検討したシステムについて、できるだけ実際に実装を行い、その機能や効果を検証する。最終成果は、講義内でグループごとに発表を行う。

■ ■ 授業スケジュール

第1回 ガイダンス・イントロダクション
第2回 環境設定・ソフトウェアインストール
第3,4,5,6回 PHPによるプログラミング
第7,8回 データベースについて、MySQL (MariaDB) のインストール、PHPからのデータベースの利用
第9,10,11,12,13, 14回 PHPアプリケーションの実装、グループワーク
第15回 グループ発表

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

課題を出しますので、自ら積極的にアプリケーションを作成し、できたものがどのような動きをするか確認すること。後半は、Webサービスの調査、開発についてグループで協力して取り組むこと。
なお、授業時間内だけでは、全ての知識を網羅することは困難であるため、動画コンテンツや補助教材を利用し、プログラミングを行ったことがない学生に対する配慮を行う予定である。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

小テスト (20点) A, B
グループ評価 (20点) A, B, C
最終課題 (40点) A, B, C
教員評価 (20点) A, B, C

■ ■ 受講条件（履修資格）

授業にノートパソコンを持参してください。
OSはWindowsもしくはMac OSを推奨しますが、Linuxでも問題ありません。

■ ■ メッセージ

自分で実際にやってみないと分かりません。手を動かしてどのような動作をするか確認してください。
可能であれば習得した方法を使って自分でプログラムを作ってみましょう。

■ ■ キーワード

■ ■ この授業の基礎となる科目

情報、Linuxリテラシー入門

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

参考書1	ISBN	4295201103				
	書名	初心者からちゃんとしたプロになるPHP基礎入門				
	著者名	柏岡秀男 著, 柏岡, 秀男,	出版社	エムディエヌコーポレーション	出版年	2021
	備考					

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

参考書の購入は必須ではありませんが、記載内容に沿って講義します。
中央図書館にありますので必要に応じて参照してください。

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3112>

■ ■ 授業言語

参考書・資料：「日本語」

講義・討論：「日本語」

ひとを理解すること

■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB2426	LB-1-AS0066-J	【教養教育】学びのリテラシー（2）
■ 担当教員（ローマ字表記）		
上星 浩子 [Jouboshi, Hiroko]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

本講義では、「ひとを理解することはできるのか」「相手の立場になって考えることはできるのか」という問いに対し、ひとを理解することの意味、ひとの持つ多様性、ひとに影響を与える要因等について考え、ひとの理解、人間関係の基盤を学ぶ。また「聞き書き」という手法を通し、対象の気持ちに気づき、感じ取る能力を獲得する。本講義の目的は、ひと（対象）を理解するために必要な知識やスキルを獲得するために文献や資料、グループディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを通して人間関係の基盤を理解することである。

■ 授業の到達目標

- 自分自身について客観的に理解し、その内容を記述できる。
- ひとを理解する意味について考えることができる。
- ひとの持つ多様性について説明できる。
- ひとに影響を与えている因子について考えることができる説明できる。
- 「聞き書き」を通して対象の気持ちに気づき、感じ取ることができる。
- ディスカッションを通してメンバーのもつ様々な見方、考え方に出会い、ひとの持つ多様性について体験できる。
- グループメンバーと協力し、他者に伝えるプレゼンテーションができる。
- グループディスカッション、プレゼンテーション、聞き書きを通してひとを理解することの必要性を説明できる。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解○
B：論理的・創造的思考力◎
C：コミュニケーション能力◎
D：社会的倫理観・国際性◎

■ 授業概要

看護の対象は人間であり、「病気を理解する」だけでなく、「病気を持つひとを理解する」、「相手（患者）の立場に立って考える」ことが重要であるといわれる。しかし、病気を持つひとの理解、自分でない相手の立場になることはなかなか難しいことである。ひとを理解するとはどのようなことか。ひとを理解することの意味、ひとの持つ多様性、ひとに影響を与える要因等について考え、ディスカッションを通してひとを理解しようとする思いや、ひとのもつ様々な見方、考え方に出会い、人間関係の基盤を学ぶ。さらに「聞く（聴く）」「語る」ことの意味や「聞き書き」という手法を通し、対象の気持ちに気づき、感じ取る能力を獲得することを目指す。

看護師の実務経験のある教員が、その実務を活かして、ひとの理解、病気を持つ人の理解の授業を行う。

■ 授業の形式（授業方法）

講義、グループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、課題レポート

■ 授業スケジュール

No.	内容
第1回	イントロダクション ひとを理解することはできるのか？（講義） 「このひと、どんな人？」：自己理解と他者理解
第2回	グループディスカッション①（演習） 「ひとの多様性」とは？
第3回	グループディスカッション②（演習） 「ひとに影響を与えている因子」は何か？
第4回	ディスカッション①②のまとめ・発表準備（演習）
第5回	プレゼンテーション：ディスカッション①②の発表（演習）
第6回	グループディスカッション③（演習） ひとを「知る」「理解する」ことの意味
第7回	グループディスカッション④（演習） 「相手の立場に立つ」とはどのようなことか？「相手の立場に立つ」ことはできるのか？
第8回	グループディスカッション⑤（演習） ひとを理解するための方法
第9回	プレゼンテーション：ディスカッション③④⑤の発表（演習）
第10回	聞くこと、語ること、書くことの意味：「聞き書き」について（講義）
第11回	「聞き書き」個人ワーク①（演習）
第12回	「聞き書き」個人ワーク②（演習）
第13回	「聞き書き」個人ワーク③（演習）

第14回	「聞き書き」 個人ワーク④（演習）
第15回	プレゼンテーション：「聞き書き」を行ってみて・まとめ
第16回	最終試験：レポート課題の提出

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

毎回の課題、ディスカッションに対し、様々な文献や資料、書籍を読むこと、プレゼンテーションの準備、聞き書き、レポートを行うための時間が必要となる。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

毎回の課題（20%）：A・B

グループディスカッション・プレゼンテーション（30%）：A・B・C・D

「聞き書き」産物（30%）：A・B・C・D

レポート（20%）：A・B・D

成績評価は、S（90-100点）、A（80-89点）、B（70-79点）、C（60-69点）、D（59点以下）とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。ただし問題の難易度によって点数を調整する場合がある。

■ 受講条件（履修資格）

常にリサーチクエストを持ち、考え、調べ、グループディスカッションに積極的に参加することが条件となる。

■ メッセージ

自分でない他人、ひとを理解すること、対象の立場になって考えることはとても難しいことです。ひとの多様性について考え、そのひとを理解するにはどうしたらよいか、皆さんで考えていきたいと思っています。

また、グループワーク、ディスカッション等でパソコン等を使用するため、ご準備ください。

■ キーワード

ひとの理解、多様性、聞き書き、実務経験、アクティブラーニング

■ この授業の基礎となる科目

学びのリテラシー 1

■ 次に履修が望まれる科目

各学部の専門科目

■ 関連授業科目

特になし

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

指定図書はないが、適宜、参考資料や図書を紹介する。

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3119>

■ 授業言語

教科書・資料:日本語

講義・討論:日本語

2024年度 後期 教養教育		日英区分:日本語
知っておきたい肺とアレルギーの話		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
LB2207	LB-1-HS0011-J	【教養教育】健康科学科目群
■ 担当教員（ローマ字表記）		
久田 剛志 [Hisada Takeshi]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
		2

■ 授業の目的

肺は、酸素を取り込み二酸化炭素を吐き出す臓器である。常に外界（周りの空気）と触れ合っているため、多くの病気がおこりえる。アレルギーを含めた呼吸器の疾患について、医療関係者のみならず、皆が知っておきたい肺とアレルギーの基本的知識についてやさしく解説する。呼吸器を中心として、病気の成り立ちや予防法、治療法の基礎を理解し、今後の生活、職業、研究などに役に立つ基本的な知識を身に付けることができるようになる。以上のことを目的とする。

■ 授業の到達目標

教養教育の科目であり、専門知識がなくても理解できるレベルである。

以下を到達目標とする。

基本的な呼吸の仕組み、肺の働きについて説明できる。

代表的な呼吸器疾患の成り立ちを説明できる。

呼吸器疾患やアレルギー疾患の予防法や治療法の基本について説明できる。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- A：諸科学についての基礎的知識と理解 ○
B：論理的・創造的思考力 ○
C：コミュニケーション能力 △
D：社会的倫理観・国際性 △

この科目を受講することによって、人体の巧妙な仕組みと各種疾患が発症するメカニズムを理解することはいろいろな学部の特設教育にも通じるところがある。また、自己の健康管理にも役立つものである。

■ 授業概要

呼吸機能について、また喫煙の健康への影響、呼吸器疾患とアレルギー（肺癌、結核、肺炎、睡眠時無呼吸症候群、喘息、花粉症など）をやさしく、予防法なども含めて解説する。呼吸器学会専門医、アレルギー学会専門医、感染症専門医である教員が、その実務経験を活かして授業を行う。

■ 授業の形式（授業方法）

講義形式が主体である。

■ 授業スケジュール

全担当：久田剛志

- 第1回 肺の働き、呼吸の役割
第2回 タバコの影響・・・軽いタバコならいいのでしょうか？ 新型タバコは？
第3回 タバコ病である肺気腫（COPD）を知り、あとで後悔しないようにしましょう
第4回 肺がんを知り、予防に心がけましょう
第5回 睡眠中に息がとまっていませんか？ 睡眠時無呼吸症候群
第6回 結核、なぜマスコミで騒がれたのでしょうか？
第7回 まとめ①
第8回 肺炎・インフルエンザ 超高齢社会において
第9回 アレルギーは、どうしておこるのでしょうか？
第10回 喘息はなぜおこるのでしょうか？ 予防と治療は？
第11回 花粉症を何とかするには？
第12回 鳥の飼い主などを襲う息苦しい病気・過敏性肺炎
第13回 環境や職業によっておこる肺の病気？
第14回 食事による病気の予防！ 呼吸器疾患やアレルギーにも・・・
第15回 まとめ②
第16回 試験

※ 予定が変更になる場合には、随時連絡します。

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

毎回資料またはプリントを用意する。Moodleにより予習また復習し、知識を確実なものにして欲しい。

毎回のリアクションペーパーについて記載し提出する。

試験は記述式問題が中心であり、プリント、資料内容を理解していれば解答できる。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

各回で課されたリアクションペーパーの記述内容および講義内容に関して課される最終筆記試験の結果などを総合的に評価する。

基本的理解 A・B・C

レポートの適切な記載 A・B

履修の手引きに記載されたルーブリックに基づいて行われる。

最終レポート（70%）、各授業における課題（30%）（A,B,C,D）で評価する。

S評価、90点以上かつ受講者のなかで特に優れていると判断される者、A評価、80点以上でS評価以外の者、B評価、70-79点の者、C評価、60-69点の者、D評価、60点に満たない者。ただし試験問題の難易度によって評価を調整する場合もある。

■ 受講条件（履修資格）

全学部生

■ メッセージ

肺の病気は、年齢を問わず発症し、様々なものがある。病気の本質とその予防法を理解し、健康な生活を送れるように今から努めよう。新しい健康に関する話題も随時取り入れてやさしく解説していく。

■ キーワード

肺、呼吸器、喫煙、肺がん、結核、アレルギー、喘息、睡眠時無呼吸症候群、 ω 3脂肪酸、アクティブラーニング、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

Moodleから講義で使用する資料、プリント等を見ることができる。必要に応じてプリントを配布する。

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3430>

■ 授業言語

教科書・資料：「日本語と英語」

講義・討論：「日本語」

2024 年度 前期 共同教育学部		日英区分:日本語
教職論		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
EB3004	EB-1-FU0102-J	【共同教育学部】教育基礎科目
■ 担当教員 (ローマ字表記)		
安藤 哲也 [Tetsuya Andoh]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
	1年次 ~ 4年次	1

■ 授業の目的

教職入門期に、教師として必要とされる資質・能力等について理解するとともに、目指す教師像を自分なりに具体化していくことをねらいとする。

■ 授業の到達目標

- ・教師に必要な資質・能力について理解するとともに、その教育態度について実感することができる。
- ・教師としての成長と振り返り(リフレクション)の関係について、体験的に理解することができる。
- ・自身の理想とする教師像を具体化することができる。

■ ディプロマポリシーとの関連 (評価の観点)

- E: 学校教育・教職の基礎理論と知識 ○
F: 子どもの成長・発達と教育方法 ○
G: 教科・教育課程に関する知識と技能 -
H: 学校教育に関する様々な課題 ○
I: 他者との協働 ○

■ 授業概要

本講義は、教師の日常的職務活動の具体的な場面を想定し、学級担任としての具体的な教育行為について考察・体験することを通して、教育実践者としての教師のリアリティに接近する。幼・小・中・特支学校で学級担任として勤務した経験を適宜紹介しつつ、学校種(子どもの発達)を超えた教師としての有り様と学校種(子どもの発達)に応じた教師の有り様についても考察していく。

■ 授業の形式 (授業方法)

講義と演習。講義では、各回に提供された話題について4~6名程度のグループで話し合い、自分なりの考えをもつ機会を設ける。また、本授業のまとめとして位置付ける演習では、学級開きの場面を想定し、学級担任として子どもたちに語りかける活動を行う。

■ 授業スケジュール

- 第1回: 教師として学ぶべきことを展望する
第2回: 教師に求められる資質・能力について理解する
第3回: 教師の仕事について考える (カリキュラム経営・学級経営)
第4回: 教師の仕事について考える (子ども理解・授業づくり)
第5回: 学校・学級づくりをチームで支える視点をもつ
第6回: 教師としての成長について考える
第7回: 教師として語る (体験活動)
第8回: 理想とする教師像について考える
レポート提出

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学期で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15~30時間、授業時間外30~15時間
実験・実習・実技

事後学習として、各回の小レポートとそれに付した教員のコメントをもとに授業内容を振り返り、考察を深める。また、授業内で紹介した図書や資料を読み、さらに学びを広げたり深めたりする。

■ 成績評価基準 (授業評価方法) 及び 関連するディプロマポリシー

成績評価の方法:

- ・授業への積極的な参加態度(20%) I
- ・毎回実施の振り返り小レポート(60%) E,F,H
- ・課題レポート(20%) E,F,H

成績評価の基準:

- ・教師に求められる資質・能力と教師としての成長を促す省察の重要性について理解している。
- ・自身の理想とする教師像を具体化している。

■ 受講条件 (履修資格)

■ メッセージ

本授業では、資料の配付や課題の提出は、全て共同教育学部LMSを使用します。受講する際は、必ずLMSへの参加者登録を行ってください。

■ キーワード

教師の資質・能力 省察 同僚性・協働性 アクティブラーニング 実務経験

■ ■ この授業の基礎となる科目

■ ■ 次に履修が望まれる科目

■ ■ 関連授業科目

■ ■ 教科書

■ ■ 参考書

■ ■ 教科書・参考書に関する補足情報

LMSから毎回の講義で使用する講義資料、ワークシート等をダウンロードできる。

■ ■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

■ ■ 授業言語

2024 年度 前期 共同教育学部		日英区分 : 日本語
教育とICT活用		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB3021	EB-1-FU0116-J	【共同教育学部】教育基礎科目
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
鈴木 豪 [Goh Suzuki], 紺谷 正樹 [Konya, Masaki]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	1年次 ~ 4年次	1

■ ■ 授業の目的

現代の学校教育において、情報通信技術の活用は不可欠なものになりつつある。本講義では、教育現場における情報通信技術（ICT）の意義やあり方、活用方法等について、基礎的な理解をすることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

- ・学校教育における情報通信機器の活用と意義について説明できる
- ・情報機器通信機器を活用する際の注意点（情報モラルなど）について説明できる
- ・学校におけるICT環境整備ならびに外部人材との連携のあり方について説明できる
- ・タブレット端末を活用した学習指導をはじめとする教育の情報化について説明できる

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- E : 学校教育・教職の基礎理論と知識○
F : 子どもの成長・発達と教育方法◎
G : 教科・教育課程に関する知識と技能○
H : 学校教育に関する様々な課題○
I : 他者との協働△

■ ■ 授業概要

本講義では、ICT機器の教育活用における意義や活用方法について説明する。
なお、実務経験を有する教員については、主として、
中学校数学科における情報通信機器を活用した学習場面の整理と教育効果の検証の経験を生かして、タブレット端末を活用した指導技術の理解とその指導法に関する授業等を実施する。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

基本的には教員からの講義形式で進める。ただし、学生同士のグループワークや意見交換等も必要に応じて随時行う。

■ ■ 授業スケジュール

- 第1回：ICT環境整備ならび校務システムの構築と外部人材等の連携（紺谷）（実務経験のある教員による授業）
第2回：タブレット端末を活用した指導技術の理解とその指導法（紺谷）（実務経験のある教員による授業）
第3回：スタディログを活用した教育評価ならびに教育情報セキュリティ（紺谷）（実務経験のある教員による授業）
第4回：オンライン教育システムの意義ならびにその活用方法（紺谷）（実務経験のある教員による授業）
第5回：現代の学校教育における情報通信技術活用の意義と在り方（鈴木）
第6回：特別の支援を必要とする児童生徒への対応と情報通信機器の活用（鈴木）
第7回：教科教育（教科横断的な教育を含む）と情報活用能力・情報モラルの指導（鈴木）
第8回：情報通信機器の操作の指導法（鈴木）

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。
学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

毎回、LMS上に小課題を掲示するので、取り組むこと。
また、配付資料以外の参考資料もLMSに掲示したり、リンクを作成するので、確認すること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

毎時間の小課題並びに2回のレポート課題提出をもって総合的に評価する。

毎回の講義に付随する小課題の提出状況(20%)(EFGH)
レポート課題（鈴木出題）（40%）(EFGH)
レポート課題（紺谷出題）（40%）(EFGH)

レポート課題は、主に、
・授業内容を踏まえたものになっているか
・内容が論理的でわかりやすいか
の観点から評価される。

■ ■ 受講条件（履修資格）

共同教育学部生（2022年以降の入学者）

■ ■ メッセージ

■ キーワード

情報通信技術（ICT）、教育法法学、タブレット端末、GIGAスクール、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム（Moodle）へのリンク

この講義では、群馬大学LMSではなく、共同教育学部LMSを使用しますので、注意してください。

■ 授業言語

2024 年度 前期 共同教育学部		日英区分:日本語
小学校音楽 A		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2094	EB-2-BA0601-J	【共同教育学部】小学校教科・指導法
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
菅生 千穂 [Sugo Chiho]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次 ~ 4年次	1

■ ■ 授業の目的

小学校教科「音楽」を指導するために必要な基礎的能力を身につけること。

■ ■ 授業の到達目標

小学校教科「音楽」を指導するために必要な基礎的能力を身につけること。

- 1) 小学校音楽の授業において必要とされる音楽の構成要素とその表記の方法がわかる。
- 2) 音階、和音、リズムと拍子の基礎について理解し、選んだり工夫したりして使用できる。
- 3) 調性の基礎について理解する。
- 4) 伴奏つけの基本について理解し、簡単なリズムパターン等による伴奏付けができる。
- 5) 歌唱の基本的考え方を理解する
- 6) 創作の基本的考え方を理解する

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

この授業は本学のディプロマポリシー項目に下記のように関連する。

- E: 学校教育・教職の基礎理論と知識 (Basic theory and knowledge about school education and teaching profession) ○
F: 子どもの成長・発達と教育方法 (Growth and development of children and educational methods) ◎
G: 教科・教育課程に関する知識と技能 (Knowledge and skills related to subjects and curriculum) ◎
H: 学校教育に関する様々な課題 (Various issues related to school education) ○
I: 他者との協働 (Cooperation with others) ○

■ ■ 授業概要

小学校音楽専科教員の実務経験を持つ教員が、その実務経験を活かして本授業を行う。

下記の内容にそって、講義をもとに音楽の基礎知識を身につけながら、実技も学習する。

- 1) 小学校音楽の授業において最低限必要とされる基礎的な範囲で、音楽の構成要素とその表記の方法を知ること（楽典）。
- 2) 音階、和音、リズムと拍子の基礎について理解する。
- 3) 調性の基礎について理解する
- 4) 伴奏つけの基本について理解し、簡単なリズムパターン等による伴奏付けができる。
- 5) 歌唱の基本的考え方を理解する
- 6) 創作の基本的考え方を理解する

■ ■ 授業の形式（授業方法）

クラス形式の講義と演習（ピアノの演習・楽器を用いた演習）、グループによる演習を含む。

■ ■ 授業スケジュール

小学校音楽専科教員の実務経験を持つ教員による授業（全回）

- 第1回: ガイダンス、および小学校教科「音楽」について
第2回: 基礎楽典① 音階のしくみ
第3回: 基礎楽典② 和音のしくみ
第4回: 基礎楽典③ リズムと拍子
第5回: 演習① 八長調・イ短調の演奏
第6回: 演習② 卜長調・ホ短調の演奏
第7回: 演習③ ヘ長調・ニ短調の演奏
第8回: 演習④ リズムパターンと伴奏付け
第9回: 演習⑤ 歌唱
第10回: 演習⑥ 歌唱
第11回: 演習⑦ 創作
第12回: 演習⑧ 創作
第13回: 演習⑨ 様々な音楽活動
第14回: 演習⑩ 様々な音楽活動
第15回: 演習⑪ 様々な音楽活動
定期試験

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15～30時間、授業時間外30～15時間
実験・実習・実技

教科書や関連研究等の予習・復習を勧める。ピアノやキーボードの自己練習をする。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

授業の理解度（30%）、積極的参加状況（振り返りフォームの提出を含む）（30%）、グループ発表（15%）、ピアノ伴奏課題の実技（15%）、楽典テスト（10%）により総合的に判断する。（E, F, G, H, I）

■ 受講条件（履修資格）

■ メッセージ

学校での音楽は、教師（みなさん）自身が楽しみながら、授業を行うことが大切です。みなさんも、楽しみましょう。自宅で練習できるキーボード（小さくても良い）やピアノを用意してください。歌いながら、ピアノを練習しましょう。自分のリコーダーも手元に用意してください（実家等にある人は、持ってきてください）。

■ キーワード

小学校音楽、伴奏付け、器楽、歌唱、音楽づくり、弾き歌い、楽典、実務経験、アクティブラーニング

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

初等科音楽科指導法

■ 教科書

教科書1	ISBN					
	書名					
	著者名		出版社	教育出版	出版年	2017
	備考					

■ 参考書

参考書1	ISBN	9784877884222				
	書名	新 音楽の授業づくり				
	著者名	音楽の授業づくり研究会編	出版社	教育芸術社	出版年	2010
	備考					

参考書2	ISBN	9784877883775				
	書名	おんがくのしゅくみ ～歌って動いてつくってわかる音楽理論～				
	著者名		出版社	教育芸術社	出版年	2008
	備考					

参考書3	ISBN	9784534038661				
	書名	やさしくわかる楽典				
	著者名	青島広志	出版社	日本実業出版社	出版年	2005
	備考					

参考書4	ISBN	9784877883232				
	書名	心を育む子どもの歌				
	著者名	南 曜子、今村方子、今川恭子	出版社	教育芸術社	出版年	2010
	備考					

参考書5	ISBN	9784316804415				
	書名	「先生力」をつける!…待ち遠しい音楽授業のために				
	著者名	橋本龍雄, 松永洋介, 吉村治広著, 橋本, 龍雄, 松永, 洋介, 吉村, 治広,	出版社	教育出版	出版年	2017
	備考					

参考書6	ISBN	9784316406633				
	書名	Music Navigation : 音楽史・楽典・ノート				
	著者名		出版社	教育出版	出版年	2013
	備考					

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ ■ [コース管理システム \(Moodle\) へのリンク](#)

■ ■ [授業言語](#)

2024 年度 後期 共同教育学部		日英区分 : 日本語
初等国語科指導法		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2106	EB-2-BB0101-J	【共同教育学部】 小学校教科・指導法
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
濱田 秀行 [Hamada Hideyuki], 永由 徳夫 [Nagayoshi Norio], 河内 昭浩 [Akihiro Kawauchi]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次 ~ 4年次	2

■ ■ 授業の目的

小学校国語科の授業を実践する資質・能力を高めるために、学習指導要領に基づく小学校国語科の学習指導の目標・内容・方法について理解を深める。小学校国語科の授業において「主体的・対話的で深い学び」を実現することができるようになることを目的とする。

■ ■ 授業の到達目標

学習指導要領に示される目標・内容・方法を踏まえた小学校国語科の授業実践を構想することができる。
小学校国語科の学習指導案を作成することができる。
「指導と評価の一体化」について説明ができる。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

E : 学校教育・教職の基礎理論と知識 -
F : 子どもの成長・発達と教育方法 ○
G : 教科・教育課程に関する知識と技能 ○
H : 学校教育に関する様々な課題 ○
I : 他者との協働 ○

■ ■ 授業概要

小学校国語科の授業を構想する上で踏まえるべき「学習指導要領解説国語編」の内容について知識を得る。
他者と協働しながら小学校国語科の学習指導の計画を作成する。
学校での実務経験のある教員が、その実務経験を生かして国語科の指導方法についての授業を行う。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

講義と演習。グループでの対話・討論を行う。

■ ■ 授業スケジュール

- 1 小学校における「ことば」の学び（講義：濱田）
- 2 国語科学習指導の枠組み（言語活動）（講義：濱田）
- 3 「読むこと」の指導①（演習：濱田）
- 4 「読むこと」の指導②（演習：濱田）
- 5 「主体的・対話的で深い学び」の実現（ICTの活用について）（講義：濱田）
- 6 実践者から学ぶ①（外部指導講師）
- 7 実践者から学ぶ②（外部指導講師）
- 8 書写①（演習：永由）
- 9 書写②（演習：永由）
- 10 国語科学習指導の目標（講義：河内）
- 11 国語科学習指導の内容と構造（講義：河内）
- 12 国語科における「知識及び技能」（講義：河内）
- 13 「書くこと」の指導①（演習：河内）
- 14 「書くこと」の指導②（演習：河内）
- 15 総括討論（演習：河内）

■ ■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業1.5～30時間、授業時間外30～15時間

実験・実習・実技

授業時間外学習課題が課される（授業時間90分に対して180分の予復習が必要である）。LMSの情報を確認し次回の授業内容の予習を行うとともに、指示ある場合、復習に相当する課題を指定された期日までに提出すること。

■ ■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

授業における課題への取り組み（20点） G, I

課題・授業の振り返り（30点） F, G

レポート（50点） G, H

※評価は担当教員ごとに算出し、担当回数の割合に基づき100点満点になるよう合算します。上記の配点比率は基本的な枠組みであり、授業の実態（課題の数等）によって変わることがあります。

■ ■ 受講条件（履修資格）

■ ■ メッセージ

本授業での学びの一つ一つが、これからの教育実習や教員生活につながっています。全力で授業に取り組んでください。

■ キーワード

アクティブ・ラーニング 小学校 国語科 指導法 「主体的・対話的で深い学び」 実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

■ 関連授業科目

■ 教科書

教科書1	ISBN	4491034621				
	書名	小学校学習指導要領解説国語編				
	著者名	文部科学省	出版社	東洋館出版社	出版年	2018
	備考					

■ 参考書

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

<https://mdl.media.gunma-u.ac.jp/course/view.php?id=3064>

■ 授業言語

2024 年度 前期 共同教育学部		日英区分：日本語
授業実践基礎学習		
■ ■ 時間割コード	■ ■ ナンバリング	■ ■ 科目分野
EB2621	EB-2-IA0301-J	【共同教育学部】総合教職科目
■ ■ 担当教員（ローマ字表記）		
教育実習委員会, 栗原 淳一 [Kurihara Junichi], 吉田 浩之 [Hiroyuki Yoshida], 安藤 哲也 [Tetsuya Andoh], 紺谷 正樹 [Konya, Masaki], 林 和弘 [Hayashi, Kazuhiro]		
■ ■ 対象学生	■ ■ 対象年次	■ ■ 単位数
	2年次～4年次	1

■ ■ 授業の目的

1. 小・中学校における授業実践(学習指導)の基礎を学ぶ。
2. 授業を観察し、観察の方法、授業の構成、進め方等について学ぶ。
3. 学校における各種の教育実践について見聞を広げる。

■ ■ 授業の到達目標

- ・学校現場における教育諸活動を注意深く見聞し、学校教育の実際について初歩的理解を得る。
- ・実習を通して観察能力を養う。

■ ■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- C：コミュニケーション能力 ◎
E：学校教育・教職の基礎理論と知識 ○
F：子どもの成長・発達と教育方法 ◎
G：教科・教育課程に関する知識と技能 ○
H：学校教育に関する様々な課題 ◎
I：他者との協働 ◎

■ ■ 授業概要

教育現場の講師から学習指導の実際について具体的な講義を受ける。また、附属学校園で、教育実習生が行う研究授業の参観と授業研究会への参加などを通して、学習指導について学ぶ。

■ ■ 授業の形式（授業方法）

附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校・附属幼稚園での実習

■ ■ 授業スケジュール

- (1) 全体オリエンテーション及び事前学習1（附属小学校副校長）
5月15日（水）14：20～16：20
- (2) 事前学習2（附属中学校副校長）
5月22日（水）14：20～15：20
- (3) 事前学習3（附属幼稚園園長，附属特別支援学校副校長）
5月29日（水）14：20～16：30
①「幼稚園教育について」
②「特別支援教育について」
②の対象：特別支援教育専攻2年生，他専攻で特支免許取得予定の2年生
- (4) 事前学習4（附属小・中学校講師）
6月12日（水）14：20～17：30
- (5) 事前学習5（教育実践センター）
7月17日（水）14：20～17：30
- (6) 事前学習6
8月28日（水）9：00～11：50
・特別支援学校 9：00～10：00
※特別支援教育専攻2年生，他専攻で特別支援（卒業要件外）を履修している2年生
・全体講話 10：10～10：40
・小・中学校（各専攻）10：50～11：50
※教育・教育心理・特別支援教育専攻の学生は，
卒業要件免許又は要件外免許に係る中学校教科の専攻で受講
- (7) 観察実習（卒業要件免許及び要件外免許に係る学校園で実施）
・附属小学校：9月10日（火），11日（水），12日（木），13日（金）
のうち，いずれかの1日
・附属中学校：9月 3日（火）， 4日（水）， 5日（木）， 6日（金）
のうち，いずれかの1日
・附属特別支援学校
対象：特別支援教育専攻2年生，他専攻で特別支援（卒業要件外）を履修している2年生
9月19日（木）
・附属幼稚園
対象：幼稚園での観察実習を希望する2年生
9月11日（水），12日（木）のうち，いずれかの1日
- (8) 事後学習1
・小・中学校（各専攻）
10月 2日（水）14：20～17：30
※教育・教育心理・特別支援教育専攻の学生は，
卒業要件免許又は要件外免許に係る中学校教科の専攻で受講
- (9) 事後学習1
・特別支援学校
10月 9日（水）14：20～15：50
※特別支援教育専攻2年生，他専攻で特別支援（卒業要件外）を履修している2年生
- (10) 事後学習2（教育実践センター）

10月16日(水) 14:20~17:30
(11) 教職に関する学び(期日未定)

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。

学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15~30時間、授業時間外30~15時間

実験・実習・実技

予習として「授業実践基礎学習 事前・事後学習の記録」を熟読しておくとともに、復習として記録や課題レポート等を整理する。

■ 成績評価基準(授業評価方法) 及び関連するディプロマポリシー

事前・事後学習の理解度及び学習活動への参加状況、「事前・事後学習の記録」の記入状況 40%程度 (C,E,F,G,H)

受入校での観察実習等の取組状況 60%程度 (C,E,F,G,H,I)

等をもとに、総合的に評価する。

■ 受講条件(履修資格)

2年次

※教育現場体験学習(1年次)の単位を修得済みであり、かつ修得単位数が35単位以上(1年次末時点)の者

■ メッセージ

教育実習(本実習)への大切な基盤となります。しっかり学びましょう。

■ キーワード

教育実習、ふれあい体験、観察実習、教育現場体験学習、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

教育現場体験学習(1年次)

■ 次に履修が望まれる科目

教育実習(3年次)

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

参考書1	ISBN				
	書名	教育実習の手引き			
	著者名		出版社		出版年
	備考				

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム(Moodle)へのリンク

■ 授業言語

2024 年度 前期 共同教育学部		日英区分:日本語
教育現場体験学習		
■ 時間割コード	■ ナンバリング	■ 科目分野
EB3134	EB-1-TP1903-J	【共同教育学部】総合教職科目
■ 担当教員（ローマ字表記）		
教育実習委員会, 栗原 淳一 [Kurihara Junichi], 吉田 浩之 [Hiroyuki Yoshida], 安藤 哲也 [Tetsuya Andoh], 紺谷 正樹 [Konya, Masaki]		
■ 対象学生	■ 対象年次	■ 単位数
	1年次 ~ 4年次	1

■ 授業の目的

公立小学校または中学校で、学校教育活動の一端に携わる体験学習をし、児童生徒とのふれあいを通して学校現場についての理解を深める。

■ 授業の到達目標

学校現場についての理解をもとに教師として必要な資質・能力について考えることができる。

■ ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

- C：コミュニケーション能力 ◎
E：学校教育・教職の基礎理論と知識 ○
F：子どもの成長・発達と教育方法 ◎
G：教科・教育課程に関する知識と技能 ○
H：学校教育に関する様々な課題 ◎
I：他者との協働 ◎

■ 授業概要

公立小学校または中学校に出向いて学校教育活動の一端に携わる体験をする。子ども達とのふれあいを通して学校現場についての理解を深めるとともに、学校における授業や授業以外の仕事について理解し、教師として必要な資質・能力について考える。

■ 授業の形式（授業方法）

公立小・中学校での実習

■ 授業スケジュール

0. 新入生学部別オリエンテーション（教育実習委員長）
4月 5日（金）13：30～14：00

（1）事前学習 1

- 5月20日（月）16：15～17：45
①1年生部会長挨拶および教育実習委員紹介
②冊子の書き方指導・身だしなみ点検（40分）
③附属中副校長講話（40分）

（2）事前学習 2

- 5月27日（月）16：15～17：45
①教育実習委員長講話（40分）
②1年生部会長講話（40分）
・今後の講義の流れ
・関係資料の記載内容の確認等
・グループ代表学生についての説明
・教育現場体験学習に当たっての諸注意

（3）事前学習 3

- 6月10日（月）16：15～17：45
①附属小副校長講話（40分）
②教育実習の心構え（40分）

（4）事前学習 4（各専攻）

- 6月17日（月）16：15～17：45
①今後の日程や取組等の確認
②グループ代表学生へ受入校ごとの名簿配付等
③留意事項、服装やマナー、電話のか

（5）事前学習 5（受け入れ校別事前うち合わせ）

- 事前学習4終了後～7月上旬
①グループ担当学部教員と学生の事前打合せ
②実習生の顔合わせならびにリーダー選出

（6）実習校での事前打合せ（各実習校にて）

7月～8月

（7）教育現場体験学習（ふれあい体験）（公立小学校又は中学校）

9月中の約5日間

（8）事後学習（各専攻別）

10月21日(月) 16:15~17:45

※日時は予定であり、変更になる場合があります。

■ 授業時間外学修情報

「学修」とは授業と授業時間外の予習・復習などを含む概念です。1単位につき45時間の学修が必要です。学則で定められている1単位の時間数は次のとおりです。

講義・演習 授業15~30時間、授業時間外30~15時間
実験・実習・実技

予習として「教育現場体験学習 手引きと記録」を熟読しておくとともに、復習として記録を整理する。

■ 成績評価基準（授業評価方法）及び関連するディプロマポリシー

事前・事後学習の理解度及び学習活動への参加状況、「手引きと記録」の記入状況 40%程度 (C,E,F,G,H)
受入校での体験学習等の取組状況 60%程度 (C,E,F,G,H,I)
等をもとに、総合的に評価する。

■ 受講条件（履修資格）

1年次

■ メッセージ

3年次での教育実習（本実習）の大切な基礎となります。しっかり学びましょう。

■ キーワード

ふれあい体験、教育実習、観察実習、授業実践基礎学習、実務経験

■ この授業の基礎となる科目

■ 次に履修が望まれる科目

授業実践基礎学習（2年次）

■ 関連授業科目

■ 教科書

■ 参考書

参考書1	ISBN					
	書名	教育実習の手引き				
	著者名		出版社		出版年	
	備考					

■ 教科書・参考書に関する補足情報

■ コース管理システム (Moodle) へのリンク

■ 授業言語